科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
K302	国際政治学Ⅱ	3 年	講義	2	吉良貴之

授業概要

東アジア情勢、日米関係、中東政治など、各種の具体的な国際問題を取り上げ、その歴史的・政治的背景を理解する。また、その分析枠組みとして、政治学の基本的な知見も身につくように構成する。

到達目標(学習の成果)

日々の国際ニュースについて、ただ感情的に反応するのではなく、一定の歴史的・政治的背景を踏まえたうえで理解できるようになること。それにあたっての基本的な政治学的知見を身に付けること。そうして、国際人として生きるうえでの基本的な知識を得るとともに、それが遠い外国の問題ではなく、自分たちの身近なまちづくりの問題にまで直結していることを理解し、異なる文化を持つ人々とともに暮らす(異文化共生)とはどういうことか、ということを主体的に考えられるようになることが望ましい。

なお、「国際政治学Ⅰ」と合わせての履修をすすめるが、講義自体は異なった構成であるため、Ⅰを未履修でも差し支えない。

授業計画

回	表 題	学修内容
1	国際政治とは何か	現在の国際社会にどのような問題が存在し、それを読み解くにはどういった視点が必要か、国際政治学の基本的な考え方を理解する。
2	政治学の方法 (1)	まず、国内政治を念頭に置きながら、「政治」のメカニズムを理解するための基本的な方法としての政治学の考え方を理解する。
3	政治学の方法 (2)	引き続き、「政治過程論」を中心に、国内のさまざまな利益団体が国際政治にどのように関わってくるか、基本的なモデルを理解する。
4	政治学の方法 (3)	「主権国家」「ナショナリズム」などの概念の歴史をふまえ、それが現実の国際政治の場面に現れるときにどのような役割を果たすのか、功罪両面を理解する。
5	東アジア情勢 (1)	日本と韓国・北朝鮮との関係について、20 世紀以降の歴史を踏まえ、どのような協力関係・利害関係があるのかを多角的に理解する。
6	東アジア情勢 (2)	引き続き、日本と韓国・北朝鮮の関係について、各国の近年のナショナリズムの高まりなどを素材として分析を深める。
7	東アジア情勢 (3)	日本と中国の関係について、20 世紀以降の歴史を踏まえ、どのような協力関係・利害関係があるのかを多角的に理解する。
8	東アジア情勢 (4)	引き続き、日本と中国の関係について、各国の近年のナショナリズムの高まりなどを素材として分析を深める。
9	東アジア情勢 (5)	東南アジア諸国、ロシア、モンゴルなど、東アジアを取り巻く各国と日本の関係を理解することにより、日本と東アジアの関係をより広い文脈のもとで考える。
10	日米関係 (1)	日米安全保障条約の枠組みを中心に、日本とアメリカの関係について国際政治的に重要な論点を理解する。
11	日米関係 (2)	日本とアジア、ヨーロッパその他の国々と関係するうえで、アメリカとの関係がどのように影響するのか、歴史を踏まえて理解する。
12	中東情勢 (1)	近年の中東諸国と欧米の緊張関係を素材にし、その根本にある宗教、価値観や利害関係について理解する。
13	中東情勢 (2)	「アラブの春」など近年の中東諸国の民主化への動きについて、とくにアメリカとの関係を念頭に置き、国際政治史の大きな流れの中で理解する。
14	EU	現代のヨーロッパ各国が直面している国際政治問題について、アメリカとの関係におけるEU の役割などを踏まえ、主権国家体制の今後を考える。
15	まとめ: 異文化共生に向けて	これまでの講義内容を踏まえたうえで、身近な問題としての「異文化共生」のあり方について自分なりの考え方をまとめる。

準備学修(授業外の自己学修) 教科書・参考書・配布資料をよく予習・復習しておくこと。講義ではリアルタイムの国際政治ニュースを多く扱うため、日頃から新聞などを意識的に読み、国際問題に関心をもつことが望ましい。
成績評価の方法・基準(%表記) 適宜、講義の終わりに 10 分程度の時間をとって小テストを行う(講義で扱った基本的な知識を問うもの。30%)。学期末には試験またはレポートを実施し、会社の法的位置付けや社会のなかでの役割や責任について述べられるかどうかを問う(70%)。
教科書 指定しない。講義では毎回、詳細な資料を配布し、それをもとに進める。 参考書等 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ』(有斐閣、2009 年、2310 円＋税) ジョン・W・ダワー、ガバン・マコーマック『転換期の日本へ』(NHK 出版[新書]、2014 年、903 円＋税) 興梠一郎『中国 目覚めた民衆』(NHK 出版[新書]、2013 年、819 円＋税) 浅羽祐希『したたかな韓国』(NHK 出版[新書]、2013 年、777 円＋税) ほか、講義中に適宜、紹介する。
履修上の注意・学修支援 疑問点がある場合には、授業中や終了後に積極的に質問してほしい(メールでの質問も受け付ける)。教員ホームページ(http://jj57010.web.fc2.com)には配布資料などを掲載するので、予習復習に役立ててもらいたい。